◇　標準塗装仕様書　◇

ボンフロン株式会社

◇工法名	BF−A106/ボンフロンマットSRクリヤー工法（下地調整なし）		
◇適用素地	打放しコンクリート、普通プレキャストコンクリート板、押出成形セメント板、スレート板 ガラス繊維補強セメント板		
◇使用材料	下塗	ボンフロン水性ACガードコート	15.0　kg / 缶
	中塗	ボンフロン水性ACミドルコート	15.0　kg / 缶
	上塗	ボンフロンマットSRクリヤー	13.0　kg / 缶

工程		使用材料	希釈率（%）	標準所要量[注1]（kg / ㎡）	塗回数	塗装間隔（23℃）	施工方法
素地調整		被塗装面をチェックし、塗装に支障のある付着物、汚れ等を除去する。					
1	下塗	ボンフロン水性ACガードコート	既調合	0.09 ～ 0.12 0.12 ～ 0.16	1	16h以上	刷毛・ローラー エアレス
2	中塗	ボンフロン水性ACミドルコート	既調合	0.10 ～ 0.12 0.12 ～ 0.16	1	4h以上	刷毛・ローラー エアレス
3	上塗	ボンフロンマットSRクリヤー	既調合	0.05 ～ 0.06 0.06 ～ 0.08	1	—	刷毛・ローラー エアレス
合　計					3		

注1）　標準所要量については、『塗装材料（希釈する前）の理論塗付量(kg/m^2) × 100 / 塗着効率（%）』で算出しております。
所要量は被塗物の形状や希釈等の塗装条件などによって増減することがありますのでご注意ください。
各種施工方法の塗着効率を下記に示します。

施工方法	塗着効率（%）
刷毛・ローラー	80～100
エアレス	60～80
各種吹付けガン	50～70

エアレス圧力（参考）5～10Mpa・50～100kg/㎠

注2）　① ボンフロン水性ACガードコートは素地の吸い込み程度により、塗装回数を調節してください。
素地の吸い込みが多い場合は2回塗装を行ってください。
② 本材料は下地に含浸するのに時間が掛かりますので、塗装間隔は必ず守ってください。
③ 本材料は、アルカリ成分と反応し分離する危険性がありますので下記の点に注意して下さい。
・ローラー施工の場合は、開缶したら当日使い切るように下さい。
・バケットで小分けし使用する場合は、残った材料は缶には戻さず廃棄して下さい。
・使用したローラーは材料に漬け置きしないで下さい。

注3）　内外部で施工可能ですが、内部施工の場合は局所排気などの手段を講じて十分に換気を行ってください。

注4）　本工法は外壁等の垂直面への施工には問題ありませんが、天端等の水平面は環境が厳しく垂直面に比べ早く劣化します。

注5）　シーリングについてはなるべく先打ちでお願いします。
後打ちにする場合、養生テープで塗装面が剥離する危険があるためなるべく接着力の弱いテープでの養生をお願いします。

注6）　気温や湿度等にも拠りますが塗膜が完全乾燥するまでに2～3週間掛かります。
塗膜が完全乾燥するまでは雨水等により水シミが発生する可能性があります。
仕様書に記載の塗布量を厳守して頂き、塗膜が完全乾燥すれば水シミは発生しません。

※ 特記　本仕様書と共に下記留意点を必ずご確認ください。
塗装工事における留意点≪水性塗料≫